

年末年始の「ゆく年くる年」などでも登場することがある福井県にある大本山永平寺は、横浜市鶴見区の本山總持寺と共に曹洞宗の本山です。雪の中で吐く息も白く、除夜の鐘をつく修行僧の様子を見たことがある方も多いのではないのでしょうか。

大本山永平寺を開かれたのは、道元禅師です。西暦一二〇〇年、鎌倉時代の京都でご誕生になりました。道元禅師の誕生日は旧暦の一月二日と伝えられており、今の暦に直すと一月二十六日になります。大本山永平寺などではご誕生のお祝いの法要が営まれます。

道元禅師の父親は時の朝廷に仕える村<sup>むらかみげんじ</sup>上源氏の流れをくむ、源道具（みなもとのみちとも）といわれ、母親は藤原氏の女性であったのではないかとされています。源道具（みなもとのみちとも）は、久我道具（くがみちとも）ともいわれ、京都伏見に屋敷があったと伝えられています。

道元禅師は八歳の時に母親を亡くし、菩提を弔いたいとの気持ちを持って出家をし僧侶になられたとされています。

誕生日というと「子供の頃の誕生日は祝って貰う日で、大人になってからの誕生日は両親に感謝をする日である」と聞<sup>き</sup>いたことがあります。

八歳の時に母親を亡くした道元禅師は、いま自分に出来ることは何かと考え、僧侶としての

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

道を歩み出しました。

様々な誕生日がある中で、「亡くなった方の誕生日を祝う」ということがあります、亡くなった方は年を取らない訳ですから、何か不思議な気持ちがするかもしれません。

しかし、一月二十五日は道元禅師の誕生日であり、四月八日はお釈迦様の誕生日「花まつり」です。どちらもお祝いします。

亡くなった方を思い起こし、その方が生を受けた日に、自分に何を残してくれたのか、自分が何をすれば良いのか考える機会にしたいものです。

道元禅師の誕生日にちなみ、大本山永平寺を開き修行の道場をつくり、仏教の正しい教えを示された事に、今、自分に何が出来るかを考えたいものです。

— 終 —